

1 日 時

- 平成30年2月13日（火） 14：30～17：00

2 会 場

- 県庁4号館 教育委員会室

3 出席者

- 宮崎県生涯学習審議会委員
宮本委員、中村委員、美根委員、柿木委員、大山委員、野崎委員、島中委員、黒木委員
青木委員、吉里委員、岡林委員、竹村委員、川越委員、松田委員、松野委員

4 開会行事

- 会長あいさつ

5 説 明

- 答申（第2案）について （※事務局より説明）

6 協 議

「持続可能な地域社会を創るみやざきならではの生涯学習の在り方について」

議 長 章ごとに審議をすすめたい。まず、第1章までの部分で何か意見等はないか。

議 長 ないようなので、第2章について何か意見等はないか。

委 員 3ページが一番下の段落の、「都市部に比べると低いのが現状である」の部分であるが、4ページの2段落目に、「県外の都市部」という表現があるので、同じ表現を使った方が分かりやすいのではないか。また、その後の「低いのが現状」の前に「本県は」を入れた方がさらに分かりやすいと考える。

事務局 答申は県民の方々が読んだときに分かりやすい方がよいので、御意見を踏まえて検討する。

委 員 3ページの5段目の部分に、満足度について丁寧に説明があるが、「また、～現時点で」の部分を削除して、「しかし、」とした方が分かりやすいのではないか。

事務局 検討します。

委 員 4ページ2段落目の「職種がなく」と言い切ってよいか。「職種が少なく」の方がよいのではないか。

議 長 その前の「希望する」の部分が、「職種」に係っているかどうかでかわってくると思うが。

事務局 「希望する」は、「高校、大学」と「職種」に係っている。読み手に伝わるように検討したい。

委 員 同じ部分で、「地元より県外の都市部などの生活に魅力を感じていることが主な要因である」と言い切っているが、何かデータがあるのか。

事務局 客観的なデータはないが、周りで見聞きしたり、よく話題になったりする内容である。表現の仕方を考えたい。

委 員 私も同じ部分であるが、代案を考えてみた。「地元よりも県外の都市部などでの生活を体験してみたいと感じることもその要因として考えられる。」とすれば、データがなくてもよいのではないか。

議 長 今の部分は、データに基づく内容ではないということで、委員から別の表現が提案されたので検討をお願いしたい。

事務局 参考にして検討する。

委 員 4ページの中段より下の部分に、「積極的な仕掛け」という表現があるが、「仕掛け」よりも「働きかけ」「方策」の方がよいのではないか。

事務局 検討したい。

委 員 溶け込み版の方で、字の抜けがある。

事務局 再度全体を確認したい。

委 員 全体に関わる部分だが、敢えて「みやざき」はひらがなにしていると思うが、4ページの下にある「みやざきの魅力」「みやざきに移住したい」などは、漢字を使った方がよいのではないか。「みやざきならではの学び」等のキーワードはひらがなでよいと思うが、地名を表す時などは、漢字の方が読みやすいのではないか。

議 長 諮問文から「みやざきならでは」を使っているところだが、事務局の考えはどうか。

事務局 審議の過程で御意見があってひらがなで統一したところであるが、全体を見ながら再度検討したい。

委 員 提案であるが、ひらがなで使う部分はカギカッコを使うなどしてはどうか。

事務局 検討したい。

- 委 員** 表記については、審議会の中で使い方を決めればどちらでも構わないと思う。
- 議 長** 4 ページの中程の部分の、「地元の大人が～つながる。」の部分は、主語がないので分かりにくいように感じる。
- 委 員** 先ほど出た「積極的な仕掛け」の部分であるが、「働きかけ」「方策」もよいと思うが、「仕組み」というのはどうか。私の周りの子育て世代は、「働きかけ」として提案されても入りにくい部分もあり、「仕組み」を提示した方よいときもある。
- 議 長** 先ほどの意見も含めて事務局で検討をお願いしたい。
- 事務局** 検討したい。
- 議 長** 3 ページの中段に、「見える化した」という表現があるが、一般的には「可視化」という言葉を使うと思うが。
- 事務局** 総合政策課が作成している「ゆたかさ指標」のリーフレットで使用していた表現をそのまま利用した。より柔らかい表現と考えた。
- 委 員** 4 ページの県民意識調査が最新のものに差し替えてあるが、それに伴って注釈も変わるのではないか。
- 事務局** 訂正する。
- 委 員** 3 ページの中段に出てくる「全国 1 位」は、「ゆたかさ指標」とは別物なのか。
- 事務局** 総合政策課制作のリーフレットの中に、公的な統計データ以外の「心で感じるゆたかさ」指標に示されているものである。
- 委 員** これは注釈は必要ないのか。
- 事務局** リーフレットの中に記載されているものであり、前段にリーフレットについての注釈があるため、二重に注釈をつけると分かりにくくなると思った。
- 議 長** 前段からのつながりとして必要な言葉があれば検討してほしい。
- 事務局** 了解した。
- 議 長** ないようであれば、第 3 章について御意見等はないか。
- 委 員** 5 ページの「体験する学びの有効性」の部分であるが、「趣味や教養の習得で終わらせないためには、」の最後を、「終わらせず」とし、上の段落をそのまま引用して、

「地域課題の解決や地域づくりに結び付けるためには、」としてはどうか。繰り返して強調することで分かりやすくなるのではないか。

さらに次の段落で、「これらの体験で」を「これらの体験を通して、」とした方がよいと考えた。

事務局 検討したい。

5 ページの最後の段落で、「参加」の中では、の部分は、「参加」することにより、としてはどうか。さらに、その後の「つながらない場合が多い」は、「つながらない場合も多い」の方がよいのではないか。

議長 今のような表現の問題について、他にも出していただき事務局で検討いただきたいと考えている。

委員 6 ページの最後の段、「PTA役員を引き受けることになり」の部分は、砕けた表現だが「引き受けることなっても」とした方が、より強調できるのではないか。

委員 今の部分に併せて、「自分の意思ではなくPTA役員を引き受ける」という表現は、PTA活動に対する消極的な表現であるので、別の表現にした方がよいのではないか。

委員 私は、この部分は「初めて」という表現がよいのではないかと思う。

議長 今の委員の意見を参考に事務局で考えていただきたい。

委員 活動を続けるうちに、新しい人間関係ができることで活動が楽しくなるということもあるので、その辺りも入れられるとよい。

委員 詳しく述べなくても今のままの文言から想像はできるようにも思う。

委員 5 ページの「地域の多様な人材の活用」の部分に、「多様な人材が埋もれている」とあるが、確かに「埋もれている」のかもしれないが、地域には地道に活動されている人材はたくさんいるので、別の発展的な表現はないか。

事務局 確かに地域の人材はたくさんいるが、現在は埋没しているということで述べている。、その人材を発掘したり、繋いだりするのが後で出てくるコーディネーターの役割になる。

委員 単純に「存在している」でもよいのではないか。

委員 活動されている方はたくさんいて、声を上げているが、繋がらないというのが現状なので、「存在している」の方が、そこに居るという意味で近いと思う。

委員 第3章をトータルしてだが、多様な人材を生かしていきたいということが記載され

ているが、学んだことを生かす側、教える側は、自分が認められていることによって、次の活動のきっかけになるのではないか。そのような表現がどこかに入れられないか。

委 員 6ページの「次第に「参加」する側から「参画」する側へ移行する」とあるが、「参加」から「参画」の過程の中で、認められたり、達成感を味わったりすることで、自分から主体的に関わっていくという意味で、この辺りに先ほどのことが入れられると、その後の子ども世代や子育て世代、高齢世代に係ってくるのではないか。

委 員 成年、高齢世代の部分で、「参加」する「参画」するに加えて「活躍」という言葉があるとよいと感じた。さらに、7ページの「30代、40代のボランティア活動の参加が低く」とあるが、地方では消防団活動は、30代、40代がメインとなっている。確かに30代、40代は自治会の活動などは参加していないが、地域防災の活動は行っているので、ボランティア活動という幅が広いので他によい表現はないか。

委 員 同じところで、「全体的に社会活動への参加は進んでいない」のであれば、進んでいないのでどうすればよいのか。その後、「高齢世代の参加・参画の場を増やしていく必要がある」とあるが、本当に高齢世代の参加・参画の場を増やしていく必要があるのかという疑問もあるが、それが必要であるなら、30代、40代の方が進んでいないので、そちらを増やしていく必要があるのではないかと考えた。

議 長 ここで休息を入れて、今の意見について引き続き議論を深めたい。

(休息)

議 長 休息前の意見を受けて思い出したのだが、私の元同僚が、昨年引退して地元に戻りこのような委員をしているのだが、その市では、少子高齢化を消極的に捉えず、高齢者の職を増やすべきだと提案したところ、見事に採用されたという話を聞いた。先ほどの意見について、しばらく議論を深めたいと思うので、もう一度発言をお願いしたい。

委 員 30代、40代のボランティア活動の部分で、「ボランティア活動」と括ってしまうと幅が広すぎる。ボランティア活動は、それぞれの世代で参加する部分が異なるので、何かよい表現はないか。また、高齢者は現在ボランティアに大変参加しているので、どのような表現がよいか。

委 員 30代、40代が成年ということになっているが、私の地区では晩婚化で50代までが子育て世代になっている。50代の子育て世代は、地域活動によく参加しており、それまでの30代、40代とは合致していない。むしろ、ここに書かれているように、高齢世代でもまだ社会参加していない方も多いので、さらに呼びかけようとしている。

委 員 子育て中は、なかなかボランティア活動に出れないが、子育てが終わった人たちの社会参加活動をもっと増やしていくという意味では、原案どおりでよいと感じた。

委員 「世代に応じて」という表現はいかかが。子育て世代は子どものためのボランティアなら参加したいと考えるだろうし、高齢世代であれば、自分が何かの役に立つ、生きがいを感じるボランティアをしたいと考える。「世代に応じた」ということであれば、全ての世代に合う取組となるのではないか。

委員 私は40代であるが、地域づくり活動、ビジネスの勉強会、などを行っているが、同じ年代が「社会活動への参加が進んでいない」というと、批判されているようでちょっと違和感がある。少し表現を柔らかくできないか。

事務局 これは、県民意識調査の「この1年間にどのくらいボランティア活動に参加しましたか」というデータをもとに記述している。もちろん40代でも参加している方もいるが、県民全体としては落ち込んでいるということである。色々な御意見をいただいたので、表現の仕方も含めて検討したい。

委員 数値があるのであればデータを入れてはどうか。「〇〇の調査によると、30代、40代の社会活動は進んでいないと思われる」とすればよいのではないか。

委員 先ほど出たように、30代、40代の社会参加が進んでいないという批判だけが残っているのが気になる。

委員 例えば、30、40代で消防団活動が活発だという意見もあったように、プラス面をまず出して、しかし、統計からみる低いというつなぎにしているのはどうか。

委員 先ほど出た「世代に応じて」というキーワードはよいと思う。

委員 別ところで、6ページの子ども世代の最後の部分で、「このような取組を小学校段階から経験させる」とあるが、小学校段階ではふるさと学習を行って、少しずつ積み重ねて高校生の活動につなげるというイメージで捉えていたが、すぐその後に「このような取組」と書いてあると、高校生が行っている取組を小学生段階からというのは難しいのではないかと思う。

事務局 意図としては、高校生が行っている取組を小学校の高学年であれば、行政に提案する取組もできれば理想だということで記述している。もちろん発達段階に応じてで構わないのだが、手段の一つとして示している。

委員 先日、小学校6年生の公開授業を見た。税金の使い方について考える授業であったが、子どもたちは大変活発に発言していた。そのような取組を小学校から行うのは、社会を知ることとして大事であると思う。

委員 これは、総合的な学習の時間での行うキャリア教育などの取組も含まれていると考えてよいか。

事務局 そう考えている。

委員 私の意見は、県内の高校の取組は、小学校と全く同じではないので、発達段階に応じてというような言葉がなくてよいのかということである。高校生はさらに踏み込んで、地域の活性化につなげたりする活動なので、誤解を招かなければよいと思う。

議長 わかりました。今のコメントで補足されたと思う。その他でないか。

委員 コーディネーターの必要性のところ、「都道府県及び市町村の教育委員会においては」からの部分で、「社会教育主事の配置」というのが出てきているが、これまで社会教育主事について議論したかということ、社会教育主事の配置が、直接的にコーディネーターの配置につながるのかというのが勉強不足でわからないので教えて欲しい。また、人材を見出す役割として、「キャリアコンサルタント」という人たちがいるので、そのような人を活用するのも方策ではないかと考えている。

社会教育主事について詳しく議論はしてないが、ワークショップの中で社会教育主事について触れていたグループもあった。社会教育主事は、記述しているように、社会教育を行う者に対する専門的技術的な助言や指導の他、コーディネーターとなる人材を見出したり、人をつなぐことが仕事である。キャリアコンサルタントなど、様々な肩書の方々もいげると思うが、全国的に通用する職名として社会教育主事が一般的で、行政ができることとしては、社会教育主事を配置が分かりやすいと考えている。

議長 社会教育主事は退職した方でもなれるのか。

事務局 講習を受ければ誰でもなれる。

委員 社会教育主事という職で限定されているイメージがあるが、教育委員会として重要なことなのか。

事務局 かつて市町村教育委員会に在籍していた社会教育主事がいなくなり、生涯学習・社会教育行政としては、コーディネーターを見出したり、育成したりするために、社会教育主事の更なる配置は重要なことである。

委員 社会教育主事の方々には、コーディネーターとなって人材を見出したり、育成したりできる人なのか。

事務局 できるような能力を講習で身に付けている。

委員 是非必要だと思う。どんどん少なくなってきており、社会教育活動がし難くなっている。昔は、社会教育主事の方が私たちの活動にも力を入れていただいていた。大学入試なども社会活動をどれだけやっているかを問われている時代である。是非必要であると思う。

- 委員** 答申に載せても一般的に分かるのか。
- 事務局** 法律にも記載されている名称である。「社会教育を行う者に対して専門的技術的な助言を指導を行う」という説明を頭につけている。
- 委員** コーディネーターの役割の部分で、現在のコーディネーターの実情などが書かれている。5ページの「地域の多様な人材の活用」の部分に関連しているが、先ほどの埋もれている人材を発掘したり、繋いだりするのもコーディネーターの役割とするなら、さらに発展的な言葉が入れるとか、また、社会教育主事の方が増えることで、コーディネーターの役割が発展的になっていくのかを知りたい。
- 事務局** まさに先ほど議論のあった地域の多様な人材を発掘するのは、社会教育主事の役割の1つだと考える。コーディネーターは様々な人を繋ぐ仕事でもあるので、地域にいる人材をマッチングできていないという現状であるので、この部分の記述になると考える。
- 委員** 最初に読んだときに現在のコーディネーターと同じ仕事のように捉えた。社会教育主事がたくさんいると、仕事として発展すると人材を発掘してマッチングできると考えてよいか。
- 委員** そのために社会教育主事の配置を促したり、増員させたりすることを望むということではないか。
- 委員** 今のところで、現在のコーディネーターは高齢化するぐらいたくさんいるのか。そもそもコーディネーターになる人は高齢者が多いのではないか。
- 事務局** 県内をみると、退職された校長やPTAのOBなどが多い。30、40代がコーディネーターを職として行うのが難しい状況である。したがって県内は高齢者が多いのが実情である。
- 委員** 社会教育において言えば、コーディネーターというのは大変幅が広い。ここでは、教育に力点をおいているが、実際には地域づくりのリーダーもコーディネーターであったり、他の分野でもコーディネーターと呼ばれる人もいるので、非常に難しい。
- 委員** ここまで様々な世代の生涯学習という論であったが、最後で狭まった感があったが、社会教育主事の配置やコーディネーターを育成していけば、様々な世代を繋ぐことができるという結論になっているのか。
- 事務局** 全ての方策を示しているわけではないが、今回の審議の中で、コーディネーターというキーワードが何度も出てきた。人と人をつなぐ者として、やはりコーディネーターの存在が重要だということで、最後に項目を起こしてこのような表現にした。
- 委員** コーディネーターが、教育の分野だけでなく、地域や企業などにつながるコーディ

ネットという言葉があると、全部が繋がっている印象になる。

議長 現実にあるコーディネーターは、つかみにくいところがたくさんあるため、それを踏まえた答申になればという意見であると思う。

委員 未来的展望としてなら、そのような内容を入れてもよいのではないか。

委員 最後の二行がこの答申の締めになっているが、4ページの「少子高齢、人口減少社会の中であっても、地域社会を将来にわたって維持する」というところがキーワードで、そのために教育や社会、企業をコーディネートできて、人が循環するということで永続的な地域社会になるということをもう少し具体的に書いてもよいのではないか。

委員 他部局とあるが、教育委員会以外ということで他部局という表現してある。教育委員会からみて他部局をコーディネートするというのでよいか。

事務局 教育委員会の答申なので、教育委員会の立場で書いてある。

委員 コーディネーターが動くとするなら、行政全体なので、知事部局の方がよいのではないか。

委員 生涯学習というと世代間のつながりだと思うが、このコーディネーターはそのようなことも行うと理解してよいか。横軸だけで縦軸はあるのかと感じた。

事務局 先ほどの議論でもあったが、従来のコーディネーターを超えて、他世代を繋ぐ者も必要であるということでもっていこうと考えている。

議長 その他はないか。なければ、今後の流れを事務局からお願いしたい。

事務局 全体を行う会は今回が最後となる。他に気付かれたことがあれば事務局に連絡いただきたい。それを加味して修正したものは、会長一任とさせていただきたい。完成したものは、委員の皆様にも送付する。

議長 それでは、事務局へ返したい。

7 閉会行事

- 生涯学習課長あいさつ
- 諸連絡